

学校支援を積極的に進めよう

～ 学校の要望に応えるため、校区で「人」「教材」を探す ～

豊橋市立老津小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、豊橋市の南部に位置し、児童数196名、学級数9（特別支援学級2含）の小規模校である。校区は、野菜や花を大規模な施設園芸や露地栽培を行う農業地帯である。古き良き農村の雰囲気を残し、校区の運動会や文化祭、お祭りや盆踊りなど、校区をあげて盛大に行われている。校区全体で子どもを大切にしている、学校に対してとても協力的である。

2 研究のねらい

児童が体験者から話を聞くとときに、遠い地域のことを聞くよりも、校区の方の話を聞いたほうがより身近に感じるであろう。授業に必要な教材も、校区にあるものを使用したほうがより効果的であると考えます。そこで、地域の「人材」や「教材」を活用し、学習効果を高めるために、学校と連携して PTA として何が出来るかを研究する。

3 研究の仮説

授業・体験活動において、人材・教材を校区の中で探すために、学校と PTA が連携すれば、児童の学習理解や地域への関心が高まり、校区とのつながりを深めることができるであろう。

4 研究の方法

必要な人材・教材を校区で探すために、担任から詳しい要望を教頭がまとめ PTA に依頼する。PTA は、要望に合う人材・教材を校区（校区自治会、敬老会、各種関係機関）に働きかけて探す。

5 研究の実践

（1）人材を探す「戦争体験を話してくださる方を探して」

6年社会の歴史では、太平洋戦争について学習する。豊橋市の出前講座を利用し、講師の方の戦争体験を聞いた。体験した方の話はとても力強く臨場感があり、児童は戦争の悲惨さや平和の尊さを学ぶことができた。講師の方は、終戦時に小学生であったり、豊橋市以外の地域であったりすることが多い。さらに学習を深めるために、6年生担任より、児童の身近な場所において、当時、大人であった人が、どのように戦争を考えていたかを伝えてほしいという要望であった。



【戦争体験を聞く会】

教頭から依頼を受けて、校区の中で該当する方を探した。敬老会名簿を使って、終戦時に成人している方をピックアップした。現在、90歳以上になる方は何人かいた。しかし、「雑談ならできるが、多くの子どもの前で先生のようにしゃべれない。」ということであった。そこで、先生が質問をして、講師の方が答えるという形で行うことにした。この方法なら話しやすいということ、二人の方が応じてくださった。

教室で講師の方を紹介すると、「あそこの家のおばあちゃんだね。」「おじいちゃんを見たことあるよ。」と、これだけでも児童は嬉しそうであった。二人が「豊橋空襲」と「豊川海軍工廠空襲」について体験を話されると、とても興味深く聞いていた。また、その当時の老津の様子や生活について、現在との大きな違いに驚いていた。特に、「戦争で日本は負けることはない」と多くの大人が信じていたことは、当時成人していた方からの言葉として、児童はとても重みを感じたようであった。

(2) 教材を探す「カブトムシの幼虫、ザリガニがほしい」

ア カブトムシを幼虫から観察したい

「幼虫からカブトムシの成長を観察したい」と、2年生の担任から要望があったので、校区の会議等で話題にしてもらった。成虫が集まる木の情報はいくつかあったが、幼虫となるとほとんど分からなかった。すると、ある会合の席で、趣味でカブトムシを飼育している方が校区にいることが分かった。教頭が相談したところ、児童の学習のためならということで、快く幼虫を10匹分けていただいた。また、成長の段階ごとの飼育のコツも教えていただき、児童は、幼虫から蛹を経て成虫になるまでの過程を、継続して観察することができた。



【カブトムシの観察】

イ 教室でザリガニを育てたい

「校区にいるザリガニを教室で飼いたい」と、2年生の担任から要望があった。自治会の会合で話題にして情報を集めたところ、ある地区の用水路に少数ながら見かけたことということだった。学校に情報を伝え、後日6匹のザリガニを捕獲することができた。教室で飼育して、ザリガニの行動や脱皮の様子を詳細に観察した。夏が過ぎたころに学習は終了し、児童はザリガニにお別れをして、元の住処の用水路に返している。

6 研究の考察

小学生が認識できる場所の範囲は、家や学校を中心としてとても狭いので、人材や教材は、校区の中で見つけることはとても重要である。「あそこの家の人」「見たことある人」「あの用水路」などのつぶやきから、児童は学習に興味・関心を高め、校区とのつながりを深めることができたと思える。

7 成果と課題

3年社会の学習で、消防団について依頼があった。消防団へのインタビューや放水の実演、消防器具庫の見学を行った。その後、消防団員に児童が積極的に挨拶をするようになり、消防団の方はとても嬉しかったと話していた。校区に人材を求めることで、児童と校区とのつながりが深まっていると思われる。

今後は、キャリア教育の支援として、学校とPTAが連携し、さまざまな職業の方を校区で探し、児童に職業観や人生観を話していただく取り組みを、広げていきたいと考えている。



【消防団による放水実演】